

3. 環境による地域的な差よりもむしろ各家庭の家族構成、住まい方など内的原因による塵埃量の差が大きい。外的影響としては土壌、道路舗装の程度、交通量及び家屋の建築構造、年代などにより微細塵、砂塵量に変化が見られる。

#### E—5 屋内塵埃の生成及び排除について (III) 環境における塵埃量の変化

ノートルダム清心女大家政 榎並 英子

1. 家族の健康保全と家事雑用に要する労力及び時間の節約のために屋内塵埃の研究を行なっているが、I、II報では、屋内塵埃の生成源となるものが主に蒲団綿の繊維と屋外よりの無機塵埃であり、塵埃生成量が寝具の種類、取り扱い方、敷物の有無などや天候、家屋の建築材料、構造などの諸条件に左右されることを報告したが今回は特に環境による屋内堆積塵埃量の変化について調査を行なった。

2. 工場地域、都市部、田園及び山村の4地域から屋外の環境、家族構成、供試室の広さなどを考慮して供試家庭を選び、寝室及び居間を対象に調査を行なった。堆積塵埃は真空掃除機を用いて採取し、

- (1) 肉眼またはルーペによる分別
- (2) 灰火法による分別

により類別した。